

今月の PICK UP



『植物のいのち』田中 修/著 中央公論新社 471 タ

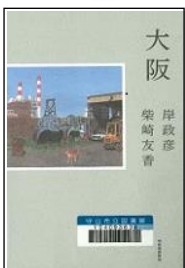
植物がどのように自分のいのちを自分で守り、約5億年もの間、陸上で生き抜いてきたのか？例えば落葉樹の葉は秋になると風に吹かれて落ちるように見えるが、実は枯れ落ちる前に、葉の栄養素を樹木本体に戻し自ら落ちる準備をするなど、農学博士である著者が、あっと驚くような植物の性質や仕組みを分かりやすく解説しています。

また、植物に元々備わっている密を避ける性質（自ら開花時期・時間をずらす、間引きを行うなど）は、今まさにわれわれが日々行っている感染症対策と一致していて、たくましく生きる植物の姿から人間が学べることがあるのではないかと述べています。

司書 おすすめ



『大阪』岸 政彦・柴崎 友香/著 河出書房新社 914.6 キ



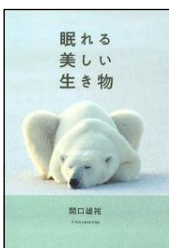
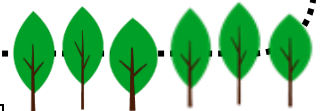
「街は単なる空間なのではなく、そこで生きられた人生そのものでもある」。遠く離れた故郷に帰ったり、思い入れのある土地を再訪した時などに、街を歩いて古い記憶がよみがえる、という経験をしたことはないでしょうか。

街は記憶の外部装置でもあるのです。様々な思いと思い出を込めて、大阪という「街(=人生)」について濃やかに語られたエッセイです。

『育てる・食べる・飾る まるごと楽しむオリーブの本』

岡井 路子/著 八月社 617.9 オ

ガーデニングカウンセラーである著者は、オリーブに心ひかれ、1990年より、国内生産地や海外のオリーブ原産国を繰り返し訪ね歩きました。そこで学んだ栽培方法や、果実の利用ノウハウを、写真やイラストを使って分かりやすく紹介されています。オリーブ生活を満喫するには欠かせない一冊です。



『眠れる美しい生き物』関口 雄祐/著 エクスナレッジ 481.3 セ

ページをめくるたびに、ゆったり眠る様々な生き物の姿があらわれ、誰もがやさしい気持ちになれそうです。なかでもキリンやマッコウクジラの寝姿にはびっくりさせられます。

また写真ごとに、動物の知られざる睡眠法が解説されています。渡り鳥やイルカの眠り方等、最新の調査結果による驚きの事実がいっぱいです。

『印刷・紙もの、工場見学記 ブックデザイナー・名久井直子が行く』

デザインのひきだし編集部/編 グラフィック社 749 デ

「デザインのひきだし」誌に掲載された連載をまとめたこの本は、本ができあがるのに欠かせない紙やインキ、製版、製本、そして日版といった取次(物流)の会社まで、様々な工場を取材・紹介しています。

一般的な本にとどまらず、卒業アルバム、地図、封筒などの他、銅版印刷や箔押し制作の現場も知ることができます。知られざる本づくりの裏側に、思わずわくわくしてしまいます。

